

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ちょう ぎょくりょう
申請者氏名 趙 玉亮

中国の食料問題は「絶対的不足」から「質的向上」に移行したが、小規模農家が大宗を占める農業生産・流通構造では十分対応ができていない。本論文は、この問題を克服するために登場した農民專業合作社の形成過程とその展開の方向を解明しようとするものである。具体的には消費形態が大きく変化している小麦を対象に、主要食糧生産地である華北地域の事例分析を通じて、農民專業合作社を中心とする優良小麦の生産・流通一貫体制が確立される過程を克明に明らかにした。農民專業合作社は、食料消費の質的向上という食料問題の新たな局面に小農生産が対応する過程で生まれた、生産と消費をつなぐ組織化の論理を有する歴史的な存在として把握することができる。

第 1 に、小麦を原料とする食品消費の洋風化と簡便化の進行、それに伴う均質で専用性を持つ優良専用小麦の需要の拡大、優良専用小麦の生産・流通に必要な条件に零細分散錯圃に特徴づけられる生産構造は対応できていないという一連の問題状況を明らかにした。それは、生産段階からの介入と流通も含めた一貫した調達体制の構築が必要であることを意味する。契約生産は選択肢の 1 つだが、多大な取引コストが生じ、契約履行率も低いという限界がある。流通面では品種別の国家買付けは行われておらず、仲買商人による買付けは不安定で農家の組織化が不可欠であり、農民專業合作社が設立される背景が明らかとなった。

第 2 に、小麦生産合作社は農家を組織して農家の生産過程に介入し、農家の共同化行動を通じて標準化された生産を全面的に展開することで小麦の品質向上を実現していること、生産された優良専用小麦は高価格で販売され、従来よりも高い収益をあげていること、生産資材や農業サービスの共同購入でコストダウンも実現していることが河南省新郷市の現地調査結果の分析から明らかとなった。特にプレミアム価格での販売による高利益が合作社への農家の参加のポイントとなっている。

第 3 に、現地調査結果から小麦生産合作社の経営実態が明らかにされた。合作社は農家を選別することなく積極的にメンバーとして受け入れ、農地をまとめて統一した基準で小麦を栽培し、効率的な農作業を実現している。合作社は農家からの手数料と販売価格の上乗せから収益をあげているが、その大部分は農家に分配されている。そのため合作社自ら農地を借りて農業生産に乗り出す動きも生まれていた。合作社の体制も現地調査を通じて明らかとなった。合作社は①設立者・管理者、②「中心会員」、③一般のメンバー農家から構成されている。③の一般のメンバー農家は作業単位であり、この農家の組織化によって農地を団地化して標準化された生産が実現され、生産資材等の共同購買が行われる。生産工程の統一と収穫物の統一的な買付けにおいて②の「中心会員」が重要な役割を果たして

いる。中心会員は村の幹部であり、合作社は村を通じて生産現場を把握する仕組みとなっている。中心会員は合作社から一定の報酬を受け取っており、合作社との間には実質的な雇用関係にある。村レベルから上のレベルは合作社が直接経営を行っている。ただし、合作社の出資は設立当初の少数の農家に限定され、その出資割合に応じて利益が分配されるケースがほとんどで、合作社の本来の趣旨から逸脱しているという問題も発生している。

第 4 に、小麦生産合作社が農業機械作業を委託している農業機械合作社の最近の動向を明らかにした。農業機械合作社は農業機械を所有する農家の連合組織であり、省を越えて作業受託を行うなど広範囲で経営を展開しているが、作業受託の収益性は低く、経営としても不安定なため、近年は借地による農業経営に乗り出す動きがみられる。合作社の展開は中国の農業構造変動の 1 つの要因となっている。

以上、本論文は小麦生産合作社の詳細な実態調査を通じて、中国の農業構造変動のダイナミズムを把握、解明した。この分析成果は、学術上、応用上資するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。